

# かもめ会だより

## □2021 年 10 月 15 日 新設グループホーム見学会のお知らせ

今年新設された精神も対象のグループホームを 2 件見学します。

日程 10 月 15 日（金）10 時 JR 京浜東北線大井町駅中央口改札付近にマスクをして集合  
集合後 タクシーに 3 人ずつ分乗して移動。

**見学①** 10 時 30 分より滞在型グループホーム DAYS（大井 6-1-1）内見と質問タイム  
DAYS については前号のかもめ会だよりに同封しましたパンフレットを参考にしてください。  
11 時 30 分～12 時にかけて 再びタクシーに分乗して大崎駅付近のレストランに移動  
大崎駅の近くのレストランでランチをいただきます。  
食事のあと 2 件目の見学先へ徒歩で移動します。5 分以内です。

**見学②** 13 時 30 分より滞在型グループホームまんぷく（西品川）内見と質問タイム  
まんぷくのパンフレットを会員の皆様に同封いたします。美味しいグループホームとのこと  
です。見学終了後タクシーで大井町駅に移動して 15 時ころ解散いたします。  
お時間のある方はお茶をいただきながら感想などを述べていただきたいです。  
会員は参加無料です。昼食を予約するため 10 月 13 日までに申込をお願いいたします。  
申込は 03-3458-6908 庄田まで電話またはメール [shoda3@east.cts.ne.jp](mailto:shoda3@east.cts.ne.jp) でお願ひします。

## □2021 年 10 月 9 日 かもめ会役員会をぐるっぽで行います

10 月 9 日（土）13 時 30 分から 15 時 30 分ころまでかもめ会役員会を品川区障害児者総合  
支援施設ぐるっぽ（南品川 3-7-7）の地下の多目的室 1（ホール）で行います。主な議題は  
10 月 15 日の見学会についてです。役員の皆様よろしくお願ひいたします。

## □ 自民党さんからヒヤリングの回答をいただきました

7 月に品川区議会自民党あてにかもめ会の要望書（前号のかもめ会だよりに全文を掲載）  
を提出しておりました。今回丁寧な回答をいただきましたので、次の 2 ページから 3 ページ  
にかけて掲載させていただきます。



要望1 精神障害者が地元で暮らし続けるためのグループホームを更に増設してください。

回答1 我が会派では、グループホームの必要性は十分理解しており、区に対し増設に向けた予算拡充を求めてまいりました。そして本年6月に精神障害者対象のグループホームが開設致しました。引き続きグループホームの増設に向けて担当課へと働きかけてまいります。

要望2 施設入所者の地域生活への移行を計画の成果目標通り進め、第6期品川区福祉計画(2)の成果目標にあるよう、前期計画の未達成分4人を追加し10人を令和5年末までにふるさと品川に返してください。

回答2 本年7月に策定された障害者福祉計画における成果目標を達成するために、現在、区はグループホームの増設に取り組んでおります。我が会派でもグループホーム増設に向けて担当課へと働きかけてまいります。

要望3 区内に精神障害者対象のグループホームその他施設がオープンする際には、可能ならオープン前に情報を、難しい場合にはオープン後早期に開所情報を知らせてほしい。

回答3 グループホーム開設後、出来るだけ早い段階で利用者団体へ情報提供をするよう、区に求めてまいります。

要望4 グループホームは広さにゆとりがない居室が多くなっているため気が詰まってしまう当事者も多いため、12平方メートル程度の居住スペースを確保してほしい。

回答4 区のグループホーム居室面積は、東京都の指定基準である7.43平米に沿って作られております。ご指摘のように、気が詰まってしまうご利用者様もいらっしゃることで、出来る限り広い面積を求めていきたいところではありますが、物件の面積にも限りがあり、居室を広くすると部屋数を減らさなければなりません。物件の面積がどれだけ確保できるかによるところが大きく、可能な限り居室を広く確保するよう、区に求めてまいります。

要望5 区内在住の精神障害1級者に障害者福祉手当(月8500円)の支給をしていただき有効活用されている現状ですが、精神障害2級者に対してもいくばくかの手当を支給してほしい。

回答5 ご指摘の通り、令和2年度より精神障害者保健福祉手帳1級の方も支給対象となるよう拡大を致しました。引き続き他区の状況等、調査研究を行いながら区に提言してまいります。

要望6 昨年度戸越公園駅近くに開設された「まるまる荘品川宿」の人气がアップしているようです。当事者が昼間ストレスなく過ごして社会復帰につなげる自立訓練作業所を品川の各地域に増設してほしい。

回答6 本年2月に自立訓練事業所が増設を致しました。今後については自立訓練の利用状況などを調査し、各地域増設についての研究を行いながら区に提言してまいります。

要望7 令和5年度から高校の新学習指導要綱の保健体育に「精神疾患の予防と回復」の項目ができますが、品川区の小中学校で東京都発行の「こんなとき、どうしたらいいの?」のようなパンフレットを利用して義務教育年齢の子供たちにも精神障害についての知識を広げる授業を品川区独自の実施として欲しい。



回答7 精神障害について、児童生徒が正しい認識をされるように調査研究を行ってまいります。

要望8 品川区はサポート24という区独自のサービスを単身の精神障害者を対象に実施しています。この制度を拡充しすべての精神障害者を対象としたアテンダントサービスに拡充してほしい。

回答8 サポート24の事業拡充にあたっては支援する人材等が必要となるため、区は事業者と協議をしながら進めていくとしております。我が会派でも事業拡充に向けて担当課に働きかけてまいります。

要望9 品川区障害者総合支援施設ぐるっぽ内にある日本精神看護協会の青物横丁クリニックの成人を対象とした診療を早期に開始してほしい。またクリニックに併設される予定の精神科デイケアについても早期の開設を促してほしい。

回答9 障害児者総合支援施設に併設の医療系サービスについては、一般社団法人日本精神科看護協会が区から場所の使用許可を受け、民説民営により開設をしており、事業の実施内容については運営事業者の判断となります。ご要望については運営事業者へ伝えていただくよう、担当課に要望致します。

要望10 品川区の新庁舎計画内に障害者総合支援施設を合築して障害者が身近に感じることのできるバリアフリー、インクルーシブ、インクルージョン施設としてほしい。

回答10 新庁舎計画につきましては検討委員会にて話し合いがされており、障害の有無にかかわらず、誰もが快適に利用していただけるような庁舎となるよう働きかけてまいります。

要望11 新型コロナウイルス感染症遺体するワクチン接種時にパニックを起こす可能性のある障害者を対象に、ぐるっぽでの落ち着いた環境でワクチン接種できるよう、障害者専用の予約接種日を設けてほしい。

回答11 障害者へのワクチン接種について区は現在、通所施設において行っているところであります。引き続きご要望に沿えるよう調査研究を進めて、区当局に求めてまいります。

要望12 かもめ会員の皆さんの平均年齢も毎年確実に増えて来つつあり、親がある一定の年齢に達したら精神障害者の生活の手伝いを自治体をお願いする制度を考えてほしい。

回答12 保護者に代わり精神障害者の生活の手伝いを行うといった取り組みを行うには法改正が必要となりますので、石原ひろたか衆議院議員、松本文明衆議院議員と連携をしながら研究を続けて参ります。

要望13 引き続き精神障害者地域生活支援センターの増設をしてほしい。

回答13 センター増設に向けて担当課へと働きかけてまいります。

要望14 30年以内に70%の確率で発生すると予測されている大震災を想定して福祉避難所を開設する防災訓練を実施してください。パニックを起こしやすい精神障害者が落ち着いて避難できる福祉避難所のあり方を研究し、東京防災等のパンフレットの障害者対応のページを増やしてください。

回答14 品川区は区内一斉防災訓練の際に、福祉避難所へ区の担当職員が赴き、手順や備蓄等の確認等を行っており、災害が発生してもすぐに避難所として機能するような訓練を行っております。また、東京防災は東京都より発行されておりますので、都議会自民党へ働きかけてまいります。



## □2021年10月31日 年輪の会 研修会のお知らせ

### 第2回年輪の会研修会

演題：「最近のグループホーム事情について」 13:30～15:00（質疑応答を含む）

講師：波多野 美佳 先生（精神科医、かもめ会顧問）

日時：2021年10月31日（日）13:30～16:15

会場：荏原保健センター2階 多目的室（下図参照）品川区荏原 2-9-6

東急池上線戸越銀座駅 徒歩5分 都営地下鉄浅草線戸越駅 徒歩10分

無料：「年輪の会」会員でなくても参加出来ます。休憩、質疑応答時間は十分に有ります。

参加希望の方は年輪の会事務局：TEL/FAX:03-5875-0433 に FAX/TEL して下さい。

E-Mail:teikichi@yg8.so-net.ne.jp にメールされても結構です。

研修会・司会担当：廣田直子（年輪の会・広報委員）携帯（SMS）090-2725-6826

主催：年輪の会（品川区精神障害者当事者会） 後援：かもめ会（品川区精神保健福祉家族会）

波多野先生の講演会終了後にNHKの番組「ドキュメント 精神科病院X新型コロナ」に写し出された精神医療の現実について参加者のみなさんで検討会を行います。 15時15分～16時15分

東京都中から精神疾患のあるコロナ陽性患者を受け入れている都立松沢病院のコロナ専門病棟。次々とクラスターが発生し、精神疾患があるが故に一般の病院での受け入れ困難とされた人たちが運び込まれる。ここにカメラを捉えると、病院にしか居場所のない患者、受け入れを拒む家族、ひっ迫する医療体制の中で葛藤する医療者たち、行き届かない行政の指導の実態が見えてきた。コロナがあぶり出した日本の精神医療、その実態の記録。

上記4行はNHKの番組「ドキュメント 精神科病院X新型コロナ」の案内を引用。

## □2021年11月10日 精神保健家族勉強会開催のお知らせ

次回の家族勉強会（荏原保健センター主催）は、11月10日（水）13時30分より「医療について」の講演会です。 荏原保健センター（品川区荏原 2-9-6）2階多目的室で開催します。 皆様のご参加をお待ちしています。

参加希望の方は、荏原保健センター ☎ 3788-7016 までお電話ください。

まだ新型コロナウイルス感染が蔓延している状況ですので、急なテーマ変更や時間変更があると思われませんが、今後ともよろしくお願ひ致します。

（以上は荏原保健センター黒川保健師さんから原稿をいただきました）



## □2021年9月8日（水）精神保健家族勉強会報告

今回のテーマは「福祉サービスについて」で区内にある

**精神障害者を対象としたグループホーム**をテーマとし、参加者は10名でした。講師は、通過型「かもめハウス」の内田様、滞在型「コノヒカラ品川」の水野様においでいただき、それぞれの特色等についてご説明くださいました。以下にご説明と質疑の内容を要約します。

### ①かもめハウス（南大井3丁目／有限会社それいゆ）

【グループホームとは】グループホーム（共同生活援助）は障害者総合支援法に基づいた障害福祉サービスのひとつ。地域で支援を受けながら、一人暮らしに向けて共同生活を行う住まいの場のこと。

【入居対象者】「精神障害があり、一定程度ご自分のことができる方」「通院治療を継続しており、服薬管理ができる方」「就労しているか、デイケアなどの日中活動の場のある方」。入居に当たっては精神科医の顧問医による面談などもある。基本的には品川区在住の方を対象としている。

【支援の内容】「コミュニケーションの練習」「金銭管理」「アパート等単身生活への移行の支援」など。その他、利用者さんをまじえて区内関係機関（相談支援事業所等）と定期的な話し合いを行うほか、全体ミーティングなども実施している。

【入居期間】通過型のグループホームであり、入居期間は最長3年。1～2年目で生活に慣れていただき、3年目のどこかで移転する方が多い。

【建物・居室等】建物は3階建てビルの3階部分で、全6部屋（定員6名）。居室は全室個室で、ミニキッチン（IH）、トイレ、ベッド、テレビが各部屋についている。共有部分に風呂場や交流室があり、洗濯機や冷蔵庫は共用部に設置。

【家賃等】家賃負担金は68,500円だが、自立支援の給付が受けられる。詳細はご相談いただきたい。日常生活費は、水道光熱費が月額8,500円、日用品費が月額1,500円。半年ごとに清算し、余剰金はお返しする。食事その他生活にかかる費用は自己負担。

【職員体制】サービス管理責任者の女性1名のほか、常勤世話人2名、非常勤世話人2名。精神科の顧問医は月に1～2回お越しになる。

【体験宿泊】入居を希望される方には、原則事前に体験宿泊をお願いしている。実際に住んでみてどうか、他の利用者さんとうまくやれるかなどをご確認いただくためにも有効。体験には共同生活援助の支給決定が必要。

【その他】「かもめハウス」の運営法人である「有限会社それいゆ」が実施している他事業について紹介する。平成20年に東京都の補助事業で「精神障害者地域生活サポート24事業」ができた。品川区ではグループホームを退室してアパートで暮らす方や、単身で地域生活する方々の生活支援として、有限会社それいゆが委託を受けることとなった。品川区の委託事業として、アパートで生活する方々の生活を、



各自の支援計画の範囲で支えている。戸越公園の近くの「エヴァの家」には、交流スペースなどがある。「ソル」は相談できる精神科医や、看護師・精神保健福祉士などが、関係機関との情報共有を行い、地域で生活する精神障害者の見守り支援を行っている。

### ○質疑応答

Q：子どもは今一人で生活できているが、親亡き後が心配。「サポート 24」や「ソル」は、登録すれば誰でも使えるのか。親に何かあったときのために登録しておきたいのだが。一人で暮らしている精神障害者が、何かあったときに電話できるようなサービスがあったらと思う。有料であっても構わないので、そういう場がほしい。

A：「サポート 24」は品川区内で一人暮らしをしている精神障害者が対象。「サポート 24」と「ソル」は、グループホームとは異なりいわゆる障害福祉サービスではない。イメージとしては隙間的なもので、区の委託で実施している。基本的には計画相談や訪問看護師につながっていて、他に相談する場所がある方が対象。まずは当法人の代表に相談してほしい。

Q：通過型の「かもめハウス」から、滞在型のグループホームに移る方は多いのか。

A：「かもめハウス」を退去された方のうち、半分くらいは単身生活に移行されている。滞在型グループホームに移行された方は、自分が世話人を始めてからは数名程度。

Q：滞在型グループホームとアパートなどでの単身生活では、アパートのほうが自由度が高いと思う。移行先としてはアパートのほうが人気が高いのか。

A：移行先をどうするかについては、ご本人のこれまでの暮らし方や病状によってくる。加えて、体調が安定しているかどうか、また困りごとの有無等も関係する。ご本人が「世話人がいる所でないと心配」とおっしゃるケースもある。「かもめハウス」では、夜は世話人はいないし、年末年始もいない。それにより不安が強くなる方の場合、アパートでの単身生活は心配に感じるかもしれない。ゴミ出しも一人ではないといけないし、最低限の近所付き合いも必要になってくる。確かにアパートのほうが人気が高いが、実際の移行先については現実的などころで決められる方が多い印象。

Q：戸越公園の「エヴァの家」の上に住居があると聞いたが。

A：住居はあるが、グループホームではない。普通のアパートの形態で、現在満室になっている。

## ②「コノヒカラ品川」（東大井 2 丁目／株式会社コノヒカラ）2021 年 6 月開所

【入居対象者】精神障害者と知的障害者。

【支援の内容】食事の提供、健康管理、金銭管理等、日常生活に必要な支援。介護サービス包括型であり、医療寄りの体制による支援を行っている。

【入居期間】滞在型グループホームなので、入居期間に制限はない。

【建物・居室等】定員 5 名×2 ユニットで、定員は合計 10 名。居室はマンションタイプで全室個室（1R か 1K）。全室インターネットが無料で利用可能。

【家賃等】家賃は 10 居室とも若干異なっており、概ね 75,000 円～85,000 円ぐらいの間。ただし精神障害の場合、東京都の施設借上費 69,800 円が適用になるので、69,800 円の補助が出る。その差額が自己負



担となる。入居時には火災保険加入が必要。18,000円を一括で、または月額750円を家賃とともに頂戴している。水道光熱費は入居者が個々に契約。交流室にかかる家賃等については、利用者負担はない。

【食事の提供】朝夕の食事の提供がある。食費は1日1,000円で計算した場合最大31日で31,000円になるが、実費で頂いているので実際は1日1,000円には届かず、これまでも月額31,000円を超えたことはない。現状の利用者さんを平均すると概ね26,000円ほど。管理栄養士の監修のもと、カロリー計算をして栄養価を考えたものをご提供している。

【職員体制】管理者1名、サービス管理責任者1名、世話人3名のほか、管理栄養士、看護師、臨床検査技師。日中看護師と夜間看護師を配置しており、医療的なサービスを提供できるのが特色。また、夜間の支援体制が充実しており、夜22時から朝5時まで、定員10名に対して2名の職員を配置している。夜間支援従事者は利用者さんの状況に応じ、電話の受付のほか、緊急時の対応等を行う。なお、15時から22時までは皆さんご自分で、訪問看護などをご利用になって過ごされている。

【健康・服薬管理等】健康管理としては、毎日食事提供の際の検温を徹底している。服薬管理は、通過型から来られた方などは特に自立度が高く、基本にご自分で管理されている。訪問看護を利用されている方は、週一回で服薬管理をされている方が多い。受診については、ご本人の意思を尊重するが、グループホームの判断により職員が同行・同席する場合もある。なお、利用者さんの体調不良の際は、食品や日用品の買出し等を職員が代行する。

【生活のルール等】「交流室にての定期的な報告・相談」「食事希望は前日までに申し出る」「月に一回、本人同意立会いのもとでの居室の確認」「整理整頓」「門限は22時、遅れる場合は必ず連絡を」「他利用者の居室への立入りは禁止」「刃物類は持込み禁止（自炊はインスタントラーメンなど簡単なもので）」など。また、日常の服装は清潔感が大事なので、お声がけは積極的に行っている。また、エアコンの室温状況については、利用者さんたちの体感温度がまちまちなため、職員が直接部屋に伺って、職員の体感温度によりチェックしている。また、災害対応として、必要な訓練を行っている。利用者さんのお誕生日のお祝いや、地域のイベント参加も予定していたが、コロナ禍のため現在は控えている。

【その他】現在満室だが、来年の6月1日以降にあと3室を追加で開設予定。現在の入居者は皆さん通過型や自宅、もしくは病院から入って来ておられる。今通過型やご自宅におられる方は、来年6月の新規受入れまでまだ十分な時間があるので、ぜひご検討を。

## ○質疑応答

Q：看護師、管理栄養士、臨床検査技師がいるとのこと、支援体制が他のグループホームに比べて手厚いと思う。「コノヒカラ」さんの豊島のグループホームでも同様なのか。

A：「コノヒカラ品川」に先駆けて、2月に豊島（要町）にグループホームを開設したが、そちらも同様。医療体制はとても大切。うちのグループホームには看護師がいるので、利用者さんがご納得いただけるような夜間支援が提供できていると思う。

Q：看護師等は常勤なのか。 A：常勤。

Q：現状満室とのことだが、入居者の男女比は。

A：豊島・品川ともに、7：3くらいの割合で女性が多い。



Q : 「コノヒカラ品川」の定員 10 名のうち、品川区民は何名か。

A : 品川区民は 3 名。それ以外は近隣区（港区、江戸川区等）の方。

Q : 10 名のうち 7 名が他区の方とのこと。かもめ会は区内でも比較的早くに開設情報を得たほうだと思うが、それでも電話したときには既に満室だった。他区の方はどうやってそちらの開設情報をつかんだのか。

A : 皆さんホームページをご覧になられた方たち。ご本人が検索して見つけて来られた。

Q : オープン時の募集の際に、品川に在住している精神障害者に先に知らせることはしていないのか。

A : そういった募集の仕方はしていない。品川区は精神の滞在型グループホームが少ないようで、保健所の方からはぜひともと言われた。品川区役所の方も 6 名くらいで 3 回に分けて見学に来られた。ただ、現状でグループホームの滞在型が少ないため、オープンすると他区からもたくさん入居希望者が押し寄せるような現象が起きている。当法人としても、今後杉並・練馬・大田に開設予定。来年までに 100 室を目指しており、それに向けて現在スタッフの研修を実施している。「コノヒカラ品川」の追加の 3 室は来年 6 月オープンだが「それまで待てない」「通過型の期間が切れる」「親が死んだらどうしよう」「でもお部屋がない」とのお声が届いている。特に大田区の方からのご要望が多い。

Q : グループホームの開設には東京都や品川区の補助金がある。開設に当たり、補助金は利用したのか。

A : 補助金は使っていない。

Q : マンションタイプということは、夜 12 時にコンビニに行きたくなったら、自分で行っても構わないのか。

A : 22 時を過ぎての外出は、原則世話人に連絡をするようお願いしている。外泊の際も同様。部屋にいらっしやらないと、世話人が探してしまうので。なお、朝の起床支援コールも実施している。

Q : マンションタイプということは、交流室（共有ルーム）は別にあるということか。

A : 入居用の居室とは別にある。

Q : 食事は世話人が交流室で作るのか。 A : 交流室で作る。

Q : 交流室の家賃や光熱費は法人負担とのこと。役所からの指導なのか。

A : 役所からの指導ではない。当法人独自の判断によるもの。

Q : 現状で日中活動先がなくても入居は可能か。

A : 体力がなければ、通所やデイケアに行くのは難しい。現状で日中活動先がなくても入居は可能。体力がついてくると、まずデイケアに通われる。意欲が出て来られた方は通所する。そうする中で、皆さんだんだんと身の回りのことがおできになっていくように感じている。